

わが町茶屋町新聞

六年 一組
(三浦 蒼乃 介)

発行日
(2023) 年
(8) 月 (14) 日

復活！鬼祭り

命は考えて二本の矢を一度に放つこ
とにした。すると一本は岩にぶつかり、
一本は温羅の目に命中した。目から血
き出した血は血吸川に流れ赤浜まで赤
くそまっただと言われている。
温羅は逃げるためにきじになると、
命はたかになり追った。次に温羅は鯉
になつて逃げるが命は鵜になつて食い
ついた。鯉喰神社

こうしてとらえられた温羅は首をは
ぬられたが、その首はいつまでもうな
り続けた。それほどまでに強い温羅は
吉備津彦命のずい神として吉備津神社
の境内にまつられ、うしとらみさきと
言われ有名になつた。そのうしとらみ
さきが早島の鶴崎神社にまつられたこ
とから、その氏子である早島や帯江の
人々は温羅にちなんだ鬼の面をつけて
村の中をねり歩くようになったのであ
る。



鬼の復活を願う人が出てきた。子ども会が中心となり、復活への取組が始まった。秋祭りに鬼が復活した。ところろが昭和四十六年、四十七年に少し数が減り、四十八年にもまた減り、四十九年には復活した。鬼が再び口になつた。でもやはり鬼をよみがえらせないという人々の願いは強く、会を作り、計画的に活動しようと考え、昭和五十年に鬼保存会ができた。鬼保存会では入会してくれる仲間を増やし、毎年出たくなるような鬼の楽しさを考えながら秋祭りの準備を進め、茶屋町を盛り上げてくれている。

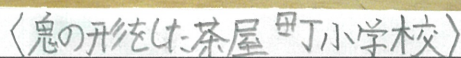


〈茶屋町公民館の鬼の面〉



今ぼくたちの住んで
 いる茶屋町には鬼にま
 つわるものがたくさん
 ある。例えば茶屋町小
 学校の校舎や、鬼たい
 こクラブ、駅前の銅像
 や鬼祭りなど茶屋町の
 色々なところで見かけ
 ます。今までの歴史から

今も茶屋町公民館では
 鬼たいこやおどりの練習
 が続けられてゐる。はや
 おき保育園では和だいこ
 を練習し鬼祭りや住吉神
 社の秋祭りに出演したり
 もする。昔から受けつが
 れてきた伝統を絶やさな
 いためにも、今茶屋町に
 住んでゐるぼくたちが協
 力し大切にしていかなけ
 ればならない。



も鬼の力
を守り続け
ることを考
え

【感想】

ぼくはいつも生活している学校や公民館にある鬼にまつわるものを見てなぞ茶屋町に鬼がいるのが気になつていた。鬼はみんな大如にされて二百年以上も續いていることとおどろいた。ぼくの好きな茶屋町をもつて活気づけるために「茶屋町の鬼」という伝統を守りたい。